

テーマ

死してなお求める恋心。 神戸に伝わる悲恋の伝説。

適用
分野

◎神戸に現存する身近な文化遺産を社会に向けて御紹介◎日本文化理解を通じた地域住民の皆様どうしの交流のお手伝い



研究
名称

『万葉集』を中心とした日本上代文学の研究
—日本の文化を地域の皆様に伝えるために—

氏名
所属

廣川晶輝 教授
文学部 日本語日文学科

内容

●特徴： 一人の美しい娘が二人の壮士に求婚され悩む。壮士の心を慮る優しい娘は悩んだ末に自ら命を絶ち、残された壮士も後を追う。人々は三人の墓を見て偲び続ける。神戸市にはこの悲恋の伝説「菟原娘(うなひをとめ)伝説」が今なお生き生きと語り継がれています。伝説の中で娘の墓とされる古墳が「処女塚」(東灘区。写真参照)として、二人の壮士の墓とされる古墳が「東求女塚」(東灘区)・「西求女塚」(灘区)として現存します。三つの古墳は等間隔に並び、左右の壮士の墓はそれぞれ、娘に思いを寄せるかのように、真ん中の娘の墓を向いています。娘の墓はどうでしょうか？どちらを向くこともできないかのように、海を向いているのです！

この悲恋の伝説は、日本の上代から近代まで、

- 奈良時代の『万葉集』
- 平安時代の『大和物語』「生田川」
- 南北朝・室町時代の謡曲(能)「求塚」
- 明治・大正時代の森鷗外の戯曲「生田川」

というように日本文化を彩って来ました。現代でも神戸の地域で語り継がれているこの伝説はなんと、1300年以上もの息の長い伝説なのです！

●研究内容： 私は神戸市教育委員会文化財課の御協力を得て『死してなお求める恋心—「菟原娘(うなひをとめ)伝説」をめぐって—』(2008年、新典社)を執筆しました。また、研究成果を活かして、宮崎県と神戸市との包括連携協定締結を祝す行事「みやざきの神楽 神戸公演2018」(2018年7月21日、於 神戸ポートオアシス)にて、「神戸に伝わる万葉悲恋の歌」と題して基調講演をしました。さらには、宮崎県主催「神話のふるさと県民大学」に招かれ、協定を祝す講演をしました。宮崎県と神戸市の文化交流に貢献した実績があるわけです。

神戸市在住の方々の中でも、日本文化の中に息づく「菟原娘(うなひをとめ)伝説」を御存知でない方が数多くいらっしゃいます。上記の神戸での講演においても「知らなかった！教えて下さってありがとうございます！」という大変ありがたい御言葉をたくさんいただきました。私は、このような素晴らしい文化遺産が神戸に存在していることを皆様にお伝えしたいのです。日本文化の理解をおして、地域の皆様どうしの交流のお手伝いをする事ができましたら、幸甚です。



キーワード

日本上代文学、菟原娘(うなひをとめ)伝説、万葉集、大和物語、謡曲(能)、森鷗外、文化交流、地域

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究